

農村まるごと保全隊
「令和7年度 小川の生き物調査隊」報告書
上砥山子どもサークルわっか

開催日時：令和7年10月26日(日) 13:00 (10月5日開催予定が雨で延期のため)

場所：日吉神社前的小川

参加申込者：子ども30名+保護者20名

参加者：子ども19名+保護者10名 (延期と開催当日雨天のため参加者減)

会計：

(収入) ¥27,226 (農村まるごと保全隊様より)

(支出) 飲料代¥13,000+粗品代¥12,500+保険代¥1,726 = ¥27,226

【当日の流れ】

12:30 役員準備

12:45 受付開始

13:00 会長挨拶

注意事項説明

13:10 小川の調査開始

14:10 雨天のため一旦終了

その後引き続き小川の調査

14:50 生き物観察会

15:00 飲料・粗品配布しながら解散

15:30 撤収





【捕まえた生き物】(捕れた数の多い順)

甲殻類：ミナミヌマエビ、アメリカザリガニ※特定外来生物

魚類：ギンブナ、カワムツ、ミナミメダカ、オオクチバス※ブラックバス：特定外来生物、

タイリクバラタナゴ※滋賀県指定外来種、シマドジョウ、ヨシノボリ、ナマズ

貝類：カワニナ、シジミ、マルタニシ

昆虫類：アメンボ、シマアメンボ、コオイムシ、コヤマトンボ（ヤゴ）、

コオニヤンマ（ヤゴ）、コオイムシ、エダナナフシ

爬虫類：カナヘビ

両生類：ウシガエル※特定外来生物

気になった植物：ヒシ（ヒシの実）



●今回特筆すべきは、特定外来生物のブラックバス（30cm弱）が3匹も捕れたことです。おそらくそれ以上の数がいるのではないかと思われます。これまでの活動で当魚は見たことがなく、稚魚も確認できなかったことから、貯水池等の周辺水域に外部から持ち込まれたと推測します。今回捕獲した3匹だけでも相当数の生物を捕食していたでしょう。今回は珍しくギンブナが多く、例年沢山いたはずのオイカワやカワムツが非常に少なかったことから、生態系の様相を変えた一因になった可能性も考えられます。人間の軽はずみな行動がこれまで長い歴史の中で田んぼと共に育まれてきた生物の循環を途絶えさせてしまうかもしれないこと、ブラックバス等の特定外来生物に罪はないけれどこのままリリースすることはできないこと、本来いるはずのないブラックバス等がいなくなるおかげで沢山の元々いた命が助かることを子ども達に伝え、特定外来生物についての実践的な学びの場となりました。



【子ども達の感想】

- ・雨で少し流れが速かったけど小川の中を歩いて楽しかった
- ・色んな生き物を捕まえられて嬉しかった
- ・大きなナマズがいたのにびっくり
- ・初めて見る生き物がいて面白かった
- ・ブラックバスがいて残念だった
- ・生き物のことや田んぼのことが知れて良かった
- ・楽しかったしプレゼントももらえて嬉しい！
- ・来年もまた参加したい！

等々

【保護者の感想】

- ・普段できない経験をさせてあげることができて良かった
- ・良い勉強にもなったし、何より子どもが楽しんでいたので参加して良かった
- ・自分の勉強にもなった
- ・こういったイベントを開催してくれて感謝

【子ども達の疑問（一部抜粋）】

- ・田んぼの周りに小川があるのはどうして?
→お米(稻)が育つには沢山の水が必要だから、田んぼに水を入れるために小川(用水路)が作られている
- ・ブラックバスはどこから来たの?
→誰かが放流したのかもしれない
- ・ブラックバスは食べられるの?
→食べられるけど、調理方法に工夫が必要らしい
- ・誰が小川を綺麗にしているの?
→周囲の田んぼを管理されている方々が小川を掃除したり水の量を調節されている
- ・この小川の水はどこから来てどこへ行くの?
→上流のため池から流れてきてどこまでいくのかは調べてみよう



【まとめ】

当初開催予定だった10月5日は雨で延期、その後も毎週末雨という異例の事態となり開催が危ぶまれましたが、なんとか10月26日に小雨の中ですが決行となりました。10月に入ってから急に気温が下がり、生き物がいるのか、寒い中の活動となるのか心配でしたが、当日は小雨でしたが寒くもなく、生き物も予想より多く見られました。前日に大雨だったにも関わらず、小川の流れは若干速かったものの深さは子どもが入れる位でした。小川の周辺も綺麗に草を刈ってくださっていて大変有難かったです。

普段なかなか入ることのできない小川に入ることができて、子ども達はとても楽しそうに活動していました。採取した生き物や植物等の質問が沢山飛び交い、知ることに喜びを感じていた様子でした。好奇心旺盛な子ども達の様々な質問を受けて、生物や植物に関しては得意分野のわっか担当者が回答することができるのですが、上砥山の歴史や環境、田んぼのことに関してはより詳しい方にご教授いただくことができたら良いなと思いました。知識や経験を次世代に繋げること、子ども達が楽しく活動しながらそれらを自然に学んでいけることが農村まるごと保全隊の意義だと思うので、今後も模索しつつこの活動に取り組んでいきたいと思います。

